

別紙①動機

以前より障がいのあるお子様に対して音楽療法を通じて、自己肯定感の向上と自己主張のできるように支援していきたいとの思いから、音楽療法士の資格を取得し、障がい福祉事業所に入職した。障がい者支援のグループホームで働いていたが、児童発達支援管理責任者の資格を取得し、放課後等デイサービスへの異動を希望し、放課後等デイサービスでの児童指導員として従事し始めた。

しかし、より深く障害のあるお子様の支援を目指し、保育士の資格を取得し、現在は、保育士として従事。

放課後等デイサービスに従事する中で、本来であれば、障害のないお子様に対してより、より多くの体験を提供し、刺激を沢山受けてもらい社会に出る準備をしていく必要があるにもかかわらず、日常生活で経験する体験が少ないことが課題だと感じるようになった。

沢山の経験を多くの人たちと一緒に経験することで、

子ども達のできること、苦手なことを子ども自身や保護者に実感してもらい、

社会に出た際に必要な支援のみを自分で依頼しながらも自分の希望通りの生活を送れるように支援していく必要があると感じた。

現在、放課後等デイサービスで保育士として従事しているが、その事業所でも

寄付していただいた廃材を活用して自分で奏でる楽器の作成、

自分たちで作詞をしてもらい、歌を作り上げていく

自作した楽器を使用して自分たちで作った歌をグループセッション、

許可を頂いたお子様に対しては SNS にアップし他者から見られること、それによって評価されることの喜びを知ってもらうまでを提供するなど

保育士だけでなく音楽療法士としても支援してきた。

また、農家をしていた経験を活かして、畑を活用しての農業体験をすることで役割をしっかり持ち、実行することで野菜や果物が収穫できるという自分たちの頑張りが目に見える成果として得られることなど、沢山の非日常や日常を経験できる体験を率先して提供してきた。

そういった支援を行うことで、

支援級に通っていたお子様が安定した生活を送れるようになられた結果、普通級へ移行されたり、卒業後も自らで SNS を活用し社会とのつながりを断つことなく生活されているお子様がおられ、

もっと沢山の体験を多くの人と提供し、社会に出た際に自分なりの希望をもって生活できるよう、暮らせる力を身に付けられるように支援をしていきたいとの希望が強くなり、その希望に賛同してくださる方々の力をお借りすることが出来ることとなったため、独立し事業を行っていきたいと思った。